

1 学校教育目標 自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成 ～合い言葉:「自分で気づき、必ず実行!! みんなで伸びる長松小学校」～	2 本年度の重点目標 ◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進 ①心身ともにたくましい子(保体部) ②当たり前のことができる子(生活部) ③みんなで伸びようと協力する子(特活部) ④自ら学び、考える子(学習部)
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者に学校教育目標及び授業内容や指導方法の周知を図る。	・学校便り月1回以上発行、校長ブログ年間90回以上更新し、学校情報を発信する。 ・はなまるメールやHPで、情報を伝えていく。 ・授業参観保護者参加率を、R元年度は90%以上にする。また、学級懇談会参加率を40%以上にする。	・読み手の興味・関心を高めるよう、コラム的な内容の学校便りとする。 ・校長ブログでは、学校内外でがんばっている児童を積極的に紹介する。 ・担任から児童の頑張りを定期的に伝えることで、積極的に連携していくつながりを作る。保護者の声を反映した懇談会にする。
学校運営	○長松コミュニティの推進	地域・保護者ボランティアの増加と児童による地域貢献。	・H30年度ボランティア延べ人数628人をR元年度は、それ以上にする。 ・地域行事やボランティア活動に参加する児童を増やす。	・コミュニティスクールとしての活動を通信等で周知させ、協力の輪を広げる。 ・地域行事やボランティア活動に参加する児童を増やすために積極的に呼びかける。 ・全校で、校区のゴミ拾いや花いっぱい活動を行う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進を図りながら、心身共に元気な教師を目指す。	・一人あたりの時間外勤務時間月平均45時間を超えない。 ・勤務時間を超える会議は行わない。 ・週に一回の一斉退勤日を実施する。 ・全校朝会や各種式典にかかる時間を5～10分短縮する。	・時間外勤務調査を毎月20日に中メし、その時点で30時間を超えている職員にヒアリングする。 ・会議や全校朝会等にはタイムテーブルを設け、効率化を図る。

①心身ともにたくましい子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着を図る。	・マラソン月間、なわとび月間などのスポーツ月間に取り組む児童の割合を時間帯等を工夫し90%以上にする。 ・県のスポーツチャレンジ事業に、学級単位で意欲的に取り組む。 ・晴れた日の外遊びを推奨する。	・スポーツ月間には、がんばりカードや賞状等、意欲を持たせる取組を行う。成果を発表する場として、全学年で学年単位のスポーツ大会を行う。 ・県のスポーツチャレンジで、独自の表彰等を行う。 ・運動用具の充実や運動場所の区分け等、運動しやすい環境を整える。
教育活動	○食育の推進と早寝早起きの定着	望ましい食習慣と自己管理能力の育成を図る。	・早寝・早起き・朝ごはんを実践し、好き嫌いのない望ましい食生活ができる児童がH30年度は87%だった。今年度はそれ以上を目指す。	・生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣と生活習慣を身につけさせる。 ・日々の給食指導の他に、年4回の給食指導週間を設け、指導を徹底する。また、級外のサポートを増やし、担任と協力して給食指導をより良いものにしていく。

②当たり前のことができる子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生活習慣の定着	「あ・ス・な・ろ・へ」の定着を図る。	・あすなろへ運動の「挨拶・丁寧な言葉、スリッパ並べ、名前札、廊下の正しい通り方、返事」を常に意識して生活できるようにする。特に挨拶・丁寧な言葉、廊下歩行については、重点的に取り組んでいく。	・全校集会や学級活動など、教育活動のあらゆる機会を捉え、礼儀や規律を重んじる態度を育成し、規範意識の向上を図る。 ・生活委員会を中心に、「あいさつ運動の推進」、「無言掃除や安全な廊下歩行の呼び掛け」等、児童の自主的な活動を支援していく。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめ、不登校等の予防や早期発見・早期対応を図る。	・良好な交友関係など、いじめ問題をなくすための心の指導の充実を図る。 ・不登校対応では、家庭との連携を密にし、専門機関とも相談しながら、継続的支援を行う。	・毎月、児童へのアンケートを取り、いじめ等の早期発見に努める。 ・毎月の生徒指導協議会で、気になる児童についての情報を共有し、学校全体で支援していく。 ・QUを活かした取り組みをしたりスクールカウンセラーとの連携を図ったりして、良好な集団作りを目指す。

③みんなで伸びようと協力する子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○自主性の伸長	・自分で気づき、実行する児童の育成を図る。	・自らを客観的に見つめ、学校や社会のきまりを守るとともに、生活がより良くなるよう率先して行動することができるようにする。	・学級活動や児童会活動を通し、みんなのためにできることを考え行動する態度を育てる。 ・いろいろな取り組みの後に活動の振り返りを行い、がんばりを紹介したり、賞状を与えたりして自己有用感を味わわせる。
教育活動	●心の教育	子ども同士、子どもと教師の信頼関係を高めるとともに、人権教育の充実を図る。	・道徳の授業の充実を図るとともに、教育活動全体を通じて自尊感情を高める。 ・日常的に互いを尊重する心を育む指導を充実する。また、人権集会を通して人権教育を推進する。	・ふれあい道徳や通信等を通して、保護者の道徳教育への理解と協力を得られるようにする。 ・年3回の人権集会を充実させる。 ・相手を尊重する気持ちを持たせるために「さん」をつけて呼び合う。 ・男女混合名簿を取り入れ、男女関係なく誰にでも平等に接する態度を育てる。

④自ら学び、考える子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・学習規律の徹底をはかる。 ・児童の主体的・対話的な学びを推進する。	・12月の県調査で県平均と同等の学力を目指す。 ・年2回以上の授業の見せ合いを行い、授業力の向上を図る。 ・3ライン指導を実践し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業を実践する。	・大志小、第一中との共通した学習規律や学び方を作る。 ・日頃の授業実践において対話活動、まとめ・ふりかえりを意識した授業実践に心がける。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・郷土について学ぶ活動の充実を図る。地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。	・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や講演会を実施する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目